

行きたくなる場所へ

盛岡市 動物公園 WSで市民の声聞く

盛岡市動物公園（辻恒徳園長）は23日、岡市盛岡駅西通の県大アイーナキャンパスで「動物公園ワークショップ（WS）」をこら計28人が参加し、同

園の魅力アップや活用い」を開いた。県立大総合政策学部の倉原宗孝教授の協力によるWSは2月25日と3月18日にも予定されている。

1989年に開園し

てから26年目を迎える同園。会の冒頭には辻本園長が同園の特徴のほか、来園者の減少など抱える課題を報告した。現在の飼育動物は約100種、約800頭という。国内からカナダ、アフリカに生息するものまで、幅広い動物の機能や形態を間近で見られる。自然豊かな立地で芝生もあり、動物を見るだけでなく散歩やウオーキングが楽しめるのも特徴

である。しかし今年度の来園者数は約16万人と、開園当初と比べて4割ほど減少している。辻本園長は「今の施設を使って何ができるのか、受ける側の人たちの意見を収集したい」と話した。

WSでは倉原教授が進行役を務めた。三つの質問「あなた（参加者）はなぜ動物公園に来るの？」「みんなは動物公園に何を求めている？」「どんな動物公園になったらいい？」に対し、それぞれの意見を出し合った。第一の質問には「動物が好き」「健康のため」「自分なりの気付きを持つ」といった意見のほか、「遠い、広すぎる、

1回行けばいい」と行かない理由を述べる参加者も。改善に向け、広報活動を活発に行うことや音声ガイドの活用、飼育員の裏話紹介などさまざまな提案がなされた。

同園の入園料は大人500円（中学生以下無料）だが、年間パスポート（1千円）を購入すれば年2回以上の来園でお得になる。ある参加者は「パスポートの存在も知られていない。ほかの施設でも販売したり、ギフトとして売ってもいいのでは」と提案。次々出る意見に、職員らも納得したように聞き入っていた。

最後に倉原教授は「三つ（動物公園の活用）の場を上げていくためにはどうしたらいいか」との質問を投げかけた。動物がいなくても岩山で、安く、日楽しく過ごせるといふ点に力を入れては」という意見も聞かれ、倉原教授も「私も、動物園とは違った部分でもPRしたらどうか」ともっと深めていった

「三つ（動物公園の活用）の場を上げていくためにはどうしたらいいか」との質問を投げかけた。動物がいなくても岩山で、安く、日楽しく過ごせるといふ点に力を入れては」という意見も聞かれ、倉原教授も「私も、動物園とは違った部分でもPRしたらどうか」ともっと深めていった

ら」と展望する。辻園長は「期待以上の果が挙げられた。せっかく出た意見を活用していくようにしたい。次回はぜひ、興のありそうな人を誘って連れてきてほしい」と話し、活動の広に期待した。



動物公園の見取り図を見ながら意見を出し合う参加者たち